

皆さん、おはようございます。

先月 10 月は東雲フェスティバルや学校説明会、そして 3 組の皆さんは小中合同運動会、さらには東雲小学校の 150 周年も含めて、皆さんは普段の教科の学習とともに、それ以外の様々な活動に引き続き、積極的に取り組んでくれていることをとても頼もしく感じています。

この後の来週 11 月 15 日の公開研究会には、今年も日本だけでなく世界の各地から皆さんの色々な教科での学びの姿を参観に来てくださる見通しです。先週には広島大学からも本校を見守ってくださっている評価委員会の先生方がお越しくださり、皆さんの普段の授業の様子も短時間でしたが一部、参観してもらえました。委員の先生方からは東雲中の生徒の皆さんの授業の姿をととても高く評価してもらえていることをここで皆さんにもしっかりとお伝えをしておきます。

さて、今日は皆さんにハイジとクララとペーターのことについて少しだけお話をしてみます。ハイジとクララとペーターと聞いて、すぐにあれか、と思い浮かぶ皆さんはどれくらいいるのでしょうか。いまから 50 年以上前にテレビでの放送が始まった「アルプスの少女ハイジ」の中心的な登場人物です。この作品に関わった関係者の中には、いまの株式会社スタジオジブリの取締役名誉会長である宮崎駿さんがいます。宮崎駿さんは「アルプスの少女ハイジ」のあとに、「ルパン三世」、「となりのトトロ」、そして最近でも「君たちはどう生きるか」などの作品を次々に世に問われ続けています。

「アルプスの少女ハイジ」は宮崎駿さんの初期の作品になりますが、特に最近になってそこに出てくるハイジとクララとペーターの生き方が、もしかすると私自身の生き方にも大きな影響を与えてくれているかもとの思いを強くしています。もともとは町で暮らしていたハイジが山に住むお祖父さんや羊飼いのペーターたちとの山での生活の中で大自然の中から色々な学びをしていきます。そこに町で暮らしていたハイジの友人である足が不自由なクララがやってきて、さてこの三人はどのように成長していくのかどうかです。

詳しくは皆さんもまた色々調べたり、家族の皆さんにも話を聞いてみたりしてみると良いかと思います。その上で、私から今日は最後にもう一人、皆さんに紹介したい人がいます。それはアメリカ合衆国の海洋生物学者であったレイチェル・カーソンさんです。カーソンさんは亡くなる直前に著作『The Sense of Wonder』の中に「知ることは感じることの半分も重要ではない：It is not half so important to know as to feel」と残されています。

普段の授業と様々な活動、町の生活と山の生活、そして知ることと感じること、この関係性を皆さんはどのように考えますか。この続きはまたどこかの機会で皆さんと考え合いたいと思います。